

上智大学アンコール遺跡国際調査団の活動概要 (1999年～2000年)

石澤良昭

上智大学アンコール遺跡国際調査団は1980年以来カンボジア王国政府（APSARA）と協力しながら「カンボジア人による、カンボジア人のための、カンボジアの遺跡保存修復」を哲学に掲げ、アンコール遺跡の調査・研究・修復保存活動を続けています。1999年度は4回にわたる調査団を現地に派遣し、以下の調査研究活動等を実施いたしました。2000年度も同様の活動を実施中でございます。

1. 調査団の派遣

- ・第26次調査団（1999年2月7日～4月21日。74日間）
- ・第27次調査団（1999年6月15日～9月22日。99日間）
- ・第28次調査団（1999年11月11日～2000年1月25日。76日間）
- ・第29次調査団（2000年2月15日～3月31日。46日間）
- ・第30次調査団（2000年6月10日～9月5日。89日間）
- ・第31次調査団（2000年10月20日～12月31日。73日間）

2. 調査研究にご協力いただいている関係機関

カンボジア王国政府文化芸術省、王立芸術大学、プノンペン大学、アプサラ（アンコール地方遺跡整備機構）、シェムリアップ州、フランス極東学院（パリ）、ユネスコ（カンボジア）、ワールド・モニュメント・ファンド（ニューヨーク市）、奈良国立文化財研究所、日本大学、東北工業大学、帝塚山学院大学、東北大学、金沢大学、奈良女子大学、京都府立大学、早稲田大学政経学部、大阪市文化財協会、酒井幸法律事務所、有田町歴史民俗資料館、小杉石材店

3. 現地における調査団の主な活動

- (1) 建築班：アンコール・ワット西参道修復工事（アプサラと共同事業）、バンテアイ・クデイ遺跡のレベル定点測定の継続、アンコール遺跡群開口部様式調査、ベンメリア遺跡の予備調査、サンボール・プレイ・クック遺跡群の予備調査など
- (2) 地質班：バンテアイ・クデイ遺跡の地下地盤の砂岩調査、共振法による石材診断、シェムリアップ川の流域扇状地の地質調査、トンレサップ湖の形成予備調査
- (3) 考古班：バンテアイ・クデイ遺跡のインベントリー補充調査、D08遺跡の実測図研究、サンボール・プレイ・クック遺跡群、新石器遺跡サムロンセンの調査研究など
- (4) 窯跡班：タニ村B1窯の発掘調査・研究、B4窯のトレンチ調査、（奈良国立文化財研究所と共同事業）プノン・クレーン丘陵の窯跡地調査、窯跡発掘のための中堅幹部人材養成プロジェクト（予定）

- (5) 水利環境班：シェムリアップ川の水質検査、トンレサップ湖の水質検査、プオック川・ロリュオス川の流域調査、トンレサップ湖の浮稲調査など
- (6) 村落・社会班：5 プームにおける農村調査、老人の社会活動参画プロジェクト、文化遺産教育、植民地時代の教育研究のための国立公文書館調査、アンコール遺跡保存政策研究など
- (7) 民話・伝統文化班：村落の口承伝承調査研究、民話絵本作成、民話を小学生の補助教材読本に作成するプロジェクト、寺院壁画調査研究など
- (8) 遠隔地文化遺産予備調査班：コーケー、コンポンスヴァイ・プリヤカーン、サンボール・プレイ・クック、ベンメリア、バンテアイ・チュマール、プリヤ・ヴィヘア等
- (9) 小学校リュック・ミッション班（ボランティア団体と共催）：シェムリアップ州小学校へ手作りリュック・サック寄贈プロジェクト（鉛筆、ノート、消しゴム、サンダル、定規など封入）

4. 人材養成プロジェクト（人的資源開発、地域住民啓発プロジェクト）

- (1) 学位取得のための大学院教育プログラム：

Ly Vanna：男、王立芸術大学考古学部1995年卒業、現在上智大学大学院地域研究専攻博士後期課程

Hor Sukuntheary：女、王立芸術大学考古学部1996年卒業、現在上智大学大学院地域研究専攻博士後期課程

Nhim Sutheavin：男、王立芸術大学考古学部1996年卒業、現在上智大学大学院地域研究専攻博士前期課程

- (2) 2000年度神奈川県海外技術研修事業

Chhean Ratha：男、王立芸術大学建築学部1996年卒業、コンピューターによる製図研修
期間：2000年5月～2001年3月、場所：神奈川県国際研修センター

- (3) アンコール遺跡における専門研修プログラム（1998年～現在）

Lœung Ravatthey（女、考古学研修生）、Som Visoth（男、考古学研修生）、Lam Sopheak（男、考古学研修生）、Nuon Mony（男、考古学研修生）、Tin Tina（男、考古学研修生）
Chahan Ratha（男、建築学研修生）、Mao Sokny（男、建築学研修生）、Tat San Huot（男、建築学研修生）

研修場所：上智大学アンコール研修所（シェムリアップ市）

- (4) アジア・ユース・フェローシップ（AYF）プログラム（日本国外務省）

Ek Bunta：男、上智大学大学院地域研究専攻博士前期課程卒業、現職 王立芸術大学講師

- (5) 文部省国費外国人留学生

Keo Kinal：男、東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻研究生

- (6) 「上智大学アンコール研修所」への長期研修生の受け入れ（考古学・建築学計15名、石工35名）

- (7) 村人・小学生を対象としたバンテアイ・クデイ遺跡についての発掘現場説明会の開催（1999

年3月、12月、2000年3月の3回)

- (8) アンコール・ワット・クリーニング・オペレーションの実施 (第1回1999年8月22日～30日 (35名参加)、第2回2000年8月25日～31日 (45名参加予定)。日本・カンボジア両国の学生研修事業)

5. 日本におけるシンポジウム・研究会・報告会等の開催

- (1) 第6回「アンコール遺跡を科学する」(活動報告シンポジウム) 主催行事(1999年1月23日)
(2) 第1回「アンコール・ワット国際シンポジウム」共催行事 (2000年2月19日)
(3) 第7回「アンコール遺跡を科学する」(活動報告シンポジウム) 主催行事(2000年2月26日)
(4) 国際シンポジウム「アジアにおける歴史水利都市と文化遺産—巨大遺跡を農業と「水」のかかわりから検証する—」主催行事 (2000年9月19・20日)
(5) 国際シンポジウム「アジアの文化遺産と21世紀—遺跡保存現場から文化遺産学に向けて—」主催行事 (2000年9月21・22日)
(6) 第8回「アンコール遺跡を科学する」(遠隔地5大遺跡調査報告シンポジウム) 主催行事 (2001年4月)

6. 出版物・報告書の刊行

- (1) 『カンボジアの文化復興』第1号～第16号 (1984-1999)
(2) 『アンコール遺跡を科学する』No.1-7 (1994-2000)
(3) 盛合禧夫編『アンコール遺跡の地質学』連合出版、2000年4月
(4) 中尾芳治『アンコール遺跡の考古学』連合出版、2000年4月
(5) 石澤良昭共著『アンコールの王道を行く』、淡交社、1999年1月
(6) ISHIZAWA, Y.: Along the Royal Roads to Angkor, Weatherhill, New York, 1999
(7) 石澤良昭・荒樋久雄・丸井雅子共著『アンコール・ワットへの道』、JTB出版部、2000年2月
(8) レイ・タン・コイ『東南アジア史』(新增補版)(石澤良昭訳)、白水社、2000年4月
(9) 坪井善明編『アンコール遺跡と社会文化発展—遺跡・住民・環境—』、連合出版、2001年3月
(10) 片桐正夫編『アンコール遺跡の建築学』、連合出版、2001年3月
(11) 石澤良昭・坪井善明・遠藤宣雄共編『カンボジアの文化復興』第17号、上智大学アジア文化研究所、2000年12月
(12) 公式報告書の作成『バンテアイ・クデイ遺跡 報告書』(仮題) (2001年12月)

以上